



## いのちと暮らしを守り介護の最前線で奮闘している 介護従事者に早急な支援を！



▲要望書 URL

5月11日長野県介護福祉士会が、新型コロナウイルス対応に対する要望書を長野県知事宛に提出し介護支援課と懇談。要望は下記の通りです。

1. マスク、グローブ、消毒液等の衛生用品の確保、非接触型体温計の確保
2. 新型コロナウイルス感染予防対策マニュアルを作成し感染予防徹底の指導を
3. 介護福祉士等介護従事者への特別手当の給付



▲長野県介護支援課（課長・担当者4名）と懇談

## ピンチをチャンスに!!

新型コロナウイルス感染予防対応の困りごと工夫・対策など情報共有しましょう。

介護福祉現場の最前線で新型コロナウイルスの感染リスクと闘いながら様々な対応をされている介護福祉士をはじめ多くの介護現場で働く皆様日々本当にお疲れさまです。

心身ともに疲弊して大変な状況ではありますが、こんな時こそ、我々介護福祉士に今何ができるのか考えて、できることからまず始めてみましょう。相談窓口「特定警戒都道府県から家族が来るというのですが…」1本の困りごとの電話がありました。在宅系の介護では共通の課題です。更なる

人手不足も課題です。それぞれの事業所での取り組みの現状を知りそれぞれが困りごとを解決するためのヒントになればと願い情報発信をしていきます。誰もが初めて経験する状況の中、正解も間違いもありません。誰かがやってくれるのではなく皆で知恵を絞って今こそ繋がってこの危機を乗り越えていきましょう。

簡単な対応事例や必要だと思われる事柄など皆様のお声を寄せてください。会員と共に考えていく長野県介護福祉士会でありたいと思います。

事例は投稿フォーム <https://space76.com/survey/>

または E-mail [info@kaigo-nagano.jp](mailto:info@kaigo-nagano.jp)

FAX 026-223-6679 にて投稿をお願いします。

事例は随時県介護福祉士会ホームページに掲載していきますのでご覧ください。 →



	目次	
会員の活動報告「アナザー・コロナ」……………	2	連載コラム ケア輪久 …………… 4
事務局からのお知らせ ……………	3	編集後記 …………… 4

介護福祉士会、会員の杉本裕美子さんが介護現場の代表として松本市の「新型コロナウイルス感染症専門者会議」の「医療福祉部会」の委員として選任され、専門職として意見を発信しています。今回、専門部会の内容や感じたことを寄稿していただきました。

私たちには別の可能性を見出すことができる

## 「アナザー・コロナ」

中信支部 杉本 裕美子



「新型コロナウイルス感染症」による影響が、自分たちのあたりまえの生活に変化を与えはじめて3カ月以上が経過したでしょうか。

日本国内でも、地域によっては感染拡大の影響が大きく、「医療崩壊」や「介護崩壊」という危機に直面している所もある中で、まだ今のところそこまで大きな影響が出ていない長野県という地域において、『介護福祉士』という現場の専門職である私たちが、この状況をどう乗り切るのかは、非常に大きな課題であると感じています。

### 介護の「リアル」は 身近が故に意識されない

最初の会議が4月9日に開催され、14名の委員の中で、介護分野から選出されていたのは、複数の施設をもつ組織の管理部門の方と私の2名だけで、9名は医師という構成でした。

この会議の中で感じたことは、介護の現場は「生活」というあたりまえの中にあるため、特別な状況である今、そこに意識を向けてもらうことが難しいのだということです。

「感染者が急増したら？」「医療体制をどう維持するのか？」といった「医療崩壊」を危惧する議論は尽きませんが、「デイサービスが休止になつたりヘルパーさんが来られなくなつたら、生きていけない方がいる」という現実には、専門職の方であってもイメージできていない。また、すでに現場の方々は痛感していることと

思います。実際にサービスを利用する利用者さんやそのご家族も、「介護サービスがなくなるかもしれない……」ということは、想像していただけないのです。

### 「今」求められていること…… 『発信力』と『つなぐ力』

会議の中で強く私自身が感じた課題は、「どうやって介護現場の実情を伝えるべきか」ということでした。しかも、厳しい現実を訴えるだけではこれまでと変わらない。「人材も物資も足りません。上からの指示がないので困っています」ということでは、今の状況では何一つ動かせません。

今求められている『発信力』は、「私たちの活かせる強みは何か」というメッセージではないかと思えます。要望を通すことや指示を待つことではなく、現場にいる私たちができないことを、「強み」として発信

する力が必要です。

そしてさらに、すでに私たちの強みである「つながる力」……（様々な事情の利用者さん、ご家族、地域とつながっているのが介護現場です）を、誰かと誰かを『つなぐ力』へとレベルを上げていくことが大きなカギになるのではないのでしょうか。

介護現場と誰かをつなぐだけでなく、私たちが誰かと誰かの手をつなげていくような役割を果たすことで、縦割りの多職種、他分野を一つのチームにすることができるとおもいます。

専門者会議の後、行政や医師会の方に時間をいただき、介護現場の実情を議論する場の設置をお願いし、新たなチームを立ち上げていただくことができました。まだどこにも見本のないことですが、「介護福祉士」の力が試される場でもあると信じて活動していますので、介護福祉士である皆さんとも、情報共有ができればと思います。

「アナザー・コロナ」……この状況下であっても私たちには別の可能性を見出すことができる……という思いでテーマにしました。

### 令和2年度介護福祉士基本研修会

第1日目：令和2年9月2日（水）  
 内容：生涯研修制度における基本研修の位置づけ  
 介護過程を展開する前提として  
 求められる介護福祉士像  
 生活支援としての介護の視点  
 自立支援の考え方  
 求められる知識と技術  
 講師：長野県介護福祉士会 甲田孝子氏

第2日目：令和2年9月17日（木）  
 内容：介護過程の基礎的理解  
 介護過程の意義と目的  
 具体的な展開  
 チームアプローチ  
 講師：長野社会福祉専門学校教授  
 北アルプスの風理事長 神谷典成氏

第3日目：令和2年10月8日（木）  
 内容：介護過程の展開の実際  
 講師：神谷典成氏

第4日目：令和2年11月26日（木）  
 内容：介護過程の展開の実際  
 研修のまとめ  
 講師：神谷典成氏

会場：JA長野県ビル12階A  
 長野市北石堂町1177番地3  
 TEL 026-236-3600

時間：9：30～16：30  
 対象者：介護福祉士資格取得者  
 今後、ファーストステップ研修と認定介護福祉士の受講希望者  
 4回の研修を受講できること  
 受講料：会員 14,000円 非会員 25,000円  
 テキスト代 1,800円込  
 (テキストを希望しない方は参加費から差し引いて振込んで下さい)

定員：50名  
 締切：8月3日（月）

### 令和2年度介護福祉士実習指導者講習会

第1日目：令和2年8月6日（木）  
 内容：介護の基本  
 実習指導の理論と実際  
 講師：長野県介護福祉士会 百瀬さくら子

第2日目：令和2年8月27日（木）  
 内容：介護過程の理論と指導方法  
 講師：長野社会福祉専門学校教授  
 北アルプスの風理事長 神谷典成氏

第3日目：令和2年10月2日（金）  
 内容：スーパービジョンの意義と活用及び  
 学生理解  
 講師：恵仁福祉協会理事長 宮島渡氏

第4日目：令和2年10月28日（水）  
 内容：実習指導における課題への対応  
 実習指導の方法と展開  
 実習指導者に対する期待  
 講師：長野社会福祉専門学校  
 副校長 庄村智子氏  
 教授 神谷典成氏  
 鈴木恵里子氏 片岡温子氏

会場：JA長野県ビル12階  
 長野市北石堂町1177番地3  
 TEL 026-236-3600

時間：受付 9：00～9：30 講義 9：30～  
 対象者：介護福祉士の資格を取得後3年以上実務に従事し、実習施設において実習指導者の担当者  
 受講料：会員 20,000円 非会員 33,000円  
 テキスト代込

定員：90名  
 締切：6月30日（火）

ケアワーク信濃 2月号 (No.151) 7ページで募集した研修委員会の「研修に関するアンケート」の締め切りを6月30日に延長します。  
 ご協力をお願いいたします。  
 送信先：長野県介護福祉士会事務局  
 FAX 026-223-6679  
 E-mail info@kaigo-nagano.jp  
<https://space76.com/survey/survey> →



各研修会等の詳細内容・申込書はホームページからお取りください。



<http://www.kaigo-nagano.jp>  
 または、【長野県介護福祉士会】で検索。  
 申込み/問合せ：長野県介護福祉士会  
 TEL026-223-6670 FAX026-223-6679

私の施設を紹介します

## ケア輪久

「それぞれの支えあい」

社会福祉法人 一陽会

### 特別養護老人ホーム 陽だまりの丘

平澤 文子

社会福祉法人一陽会の老人福祉施設は、飯田市の市街地を見渡せる高台にあります。

2012年2月1日に開設し、短期生活、従来型特養、地域密着型特養の3事業所を併設しています。

毎朝、各フロアにて理念と運営方針の唱和を行い、自分たちの心を一つにしてケアにあたっています。

当施設の開設時から地元のボランティアさんに関わっていただき、歌の訪問や週1回の喫茶、お祭り、おやす（正月飾り。藁を筒状に編んだ物）づくり、干し柿作り等を行っています。

4年ほど前、入居者さんと俳句を一緒にやってみませんかとボランティアさんから提案があった時、私は内心「ちよつと難しいかな。」と感じました。しかし、熱心に誘ってくださるので入居者さんに声をかけて何人かで句会を開催しました。

事前にご自分で作れる方、ボランティアさんと一緒に季語に関して話



▲「ひだまりの丘」のフロア

をしながら、自分が以前経験したことやその時思ったことなどをボランティアさんが聞き出してくださり、俳句の形にしていけることができました。「俳句は無理だ。」と思ってしまう自分を反省し、人の可能性を勝手に決めつけてはいけなさと痛感しました。

誰しも「認められたい。」「褒められたい。」「愛されたい。」という気持ちがあります。入居者さんも職員もこの3つの「たい」を感じることができれば生活に張りができ、仕事にもやりがいを感じます。俳句の会で「良い句



▲「ひだまりの丘」の外観

ができましたね。」と声をかけると、とても嬉しそうな表情をされます。心の中で「たい」が飛び跳ねるのです。相手の「たい」が飛び跳ね喜びが私たちに伝わると、私たちは「ああ、良かったなあ。」と仕事に対する喜びを更に感じて、それが相乗効果となつてさらにより良い支援をさせていただこうと思うわけです。

この『相乗効果』の繰り返しを大切に「ここで暮らすことができなくて良かった。」と思っていただけのようになり日々精進してまいりたいと思います。

## 編集後記

6月のケアワーク信濃ですが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、研修会等が実施出来ず4ページでのお届けになります。

日常生活の中でも行動制限や職場の中でも新型コロナウイルスの対応で心身共に大変な日々が続きます。先日、支部長からリモートミーティングの段取りをしてもらい参加。相手の顔が見える！ 凄い！ こんな時こそ、会員同士繋がり情報交換共有してこの状況を乗り越えて行きましょう。

北信支部 市村美幸

### お詫びと訂正

ケアワーク信濃4月号において、間違った標記がございました。下記のように訂正をさせていただくとともに、関係者の皆様にご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

1ページ・9ページ 学校名

信州スポーツ医療介護専門学校



信州スポーツ医療福祉専門学校

と訂正させていただきます。